

国登録文化財旧山繁商店と「北新谷」

旧山繁商店の所在する、瀬戸市中心市街地の瀬戸川北岸の丘陵地は、かつては「北新谷」と呼ばれていました。この地区の斜面には古くから多くの窯屋が集まっており、やきもの製品の集積、運搬に有利な立地でした。また、近代以降は丘陵下の街路沿いに大規模な窯屋や御問屋の居宅が建ち並んでいました。今もなお、北新谷には魅力的な歴史的景観が残されています。

旧山繁商店は近代の瀬戸を代表する陶磁器御問屋でした。かつて主人が住んでいた主屋は失われてしまったものの、皇族などの来賓を迎えた「離れ」をはじめ、9棟の建物が残されており、明治～昭和期の瀬戸を物語る陶磁器御問屋建物群として平成27年度に国登録有形文化財となりました。離れのほかに残っている建物として「土蔵」や、明治・大正期の西側の表玄関に構えられた「旧事務所」、土蔵造の倉庫である「新小屋」、昭和期に表玄関を東側に移して新たに築かれた平屋建ての「事務所」、戦中・戦後に増設された3棟の倉庫「前・中・奥倉庫」などがあります。

延藤安弘先生を悼む

平成30年2月8日、旧山繁商店保存活用計画副委員長の延藤安弘先生が、療養中の病院にて、膵臓癌のため享年78歳で永眠されました。

延藤先生は、第1回から第4回の策定委員会において活発なご意見をいただき、1月30日の第5回委員会の折には海外出張が重なりご出席いただけないご連絡を受けておりました。ご多忙な先生でいらっしゃると思っていた矢先の出来事で、旧山繁商店の保存活用についての市民参加による活用案の検討についてこれから本番というところでありました。

「きたしんがい通信 第1号・第2号」に掲載させていただきましたように、先生のご指導のもと2回の市民参加ワークショップを行い、参加者のみなさんから旧山繁商店の第一印象や、活用案についての率直な意見を引き出させていただきました。その成果は、今年度に策定される「旧山繁商店保存活用計画」にも巻末資料として掲載させていただく予定です。

先生のご冥福をお祈りいたします。

瀬戸市文化課 瀬戸市西荻町113番地の3瀬戸市文化センター内 TEL0561-84-1093 平成30年3月5日
文化財調査報告・意見交換会の様子はこちらのウェブサイトでもご覧いただけます <http://seto-cul.jp/rekibun/>

旧山繁商店保存活用関連

きたしんがい通信 第3号

平成28年度から、瀬戸市は、国登録有形文化財の旧山繁商店の9棟の建造物群を保存し、活かしていくための計画（『旧山繁商店保存活用計画』）づくりに取り組んでいます。

平成29年度は、前年度に引き続き、旧山繁商店のどこに文化財的な価値があるのかを、建築史などの専門家とともに調査し、市民の皆さんと共有する取り組みを行いました。年度末には、保存活用計画を策定し、その後、具体的な活用案などを検討していきます。

旧山繁商店を身近に その文化財的価値を知ろう

平成29年9月9日（土）・10日（日）のせともの祭の際に、市民の皆さんに旧山繁商店を知ってもらうためのイベント「旧山繁商店特別公開」と、子供向けイベント「つくってあそぼう in 旧山繁商店—出張ノベルティ・子ども創造館—」を開催しました。両イベントには、延べ人数で666名の方に参加していただきました。「旧山繁商店特別公開」では、近接した旧川本榎吉邸とも連携し、2か所の見学ツアーを行っています。

11月23日（木）には、せと歴！（せとの歴史と文化財を知る見学会）として「3つの登録文化財を巡る見学バスツアー」を午前・午後の2回開催しました。瀬戸市域に所在する旧山繁商店をはじめ、瀬戸永泉教会礼拝堂・雲興寺鐘楼を、あいちヘリテージマネージャー建築士らの解説で見学し、78名の方に参加していただきました。

きたしんがい
「北新谷」とは、近代瀬戸町の瀬戸川以北のエリアの呼び名で、旧山繁商店の立地する周辺を指します。



つくってあそぼう in 旧山繁商店
—出張ノベルティ・子ども創造館—



—出張ノベルティ・子ども創造館—
ノベルティ金魚すくい体験



旧山繁商店特別公開 見学ツアー